

令和元年度 生光学園中学校 第45回卒業証書授与式 校長式辞

校長 佐近 隆 義

暖かな日差しの中に、ひと雨ごとに、春の足音が聞こえてくるこの佳き日に、生光学園中学校卒業証書授与式がご来賓並びに保護者の皆様のご列席を賜り挙行できますことに厚く御礼申し上げます。

先ほど一人ひとりに卒業証書を授与しましたが、三十名の卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。皆さんは、在校生にとって目標の先輩であり、我々教職員の誇りでもありました。それは全国模試でのトップ成績とか、全国英語スピーチコンテストでの優秀賞、あるいは部活動砲丸投げ・全国準優勝といった記録や実績の面では勿論ですが、何より、夢にむかって、勉学にスポーツに学校行事に、真摯に取り組む姿勢において、本当に“日本一”の自慢の生徒でした。

特進コースの皆さん、正に文武両道で授業・部活 どちらも手を抜かず最後までよく頑張りました。 ありがとう。

総合コース・野球部の皆さん、切磋琢磨という言葉通り、いつも元気に明るく学園生活をすごし、最後の大会では見事、優勝旗を持ち帰ってくれました。 ありがとう。

そして“一期生”という 重責を担い 入学してきたIECコースの皆さん、貴方たちが この三年間、真摯に取り組み、そして学んだスキルは本物だと確信しています。学園に、中学校に、大きな一歩 大きな財産を残してくれました。 ありがとう。

そして、皆さんの素晴らしい成長の根底には、いつどんなときも生光学園創立者美馬昇前学園長の建学の精神が脈々と生きづいていたと私は確信しております。

皆さんが生きていくこれからの社会は、人工知能・AIが浸透しコンピューターに裏付けされたIT社会に移行していきます。画期的な時代がやってきます。しかし、そのような時代になろうとも、社会を形成するのは、やはり人 です。

それ故、真のたくましさや 優しさを 兼ね備えた 生きる力が求められます。
どうか生光学園で学んだこと、生光学園の卒業生であることに、自信と誇りを
持って、しっかり歩いて欲しいと願います。

生生方は、毎日の朝会で、皆さん方に色々な一言を発信してきました。今日は
私から “希望” という最後のメッセージを送ります。

「 希 望 . . . 人は自分だけの為に生きることはできません。

自分だけのために生きようとする、死ぬために生きているという

矛盾に 陥り、希望が持てません。

いのちあるものを大切に、育てる心を養い、

使命感と気概をいつも持ち続けてください。

使命感は、人の心を開き、真に自分を大切にする心につながります。

どうぞ、勇気を持って、良いことを実行し、

悪いことを思ったりしたりしないようつとめて

何時も希望が持てるような生き方を歩いていてください。 」

結びになりましたが、保護者の皆様に一言 お慶びとお礼を申し上げます。

お子様たちは三年間の中学校生活を無事終えられ、心身共に立派に成長を遂
げられました。 本日ここに栄えある卒業の日を迎えられましたこと、誠に
おめでとうございます。三年間において賜りましたご理解とご支援に対し、
重ねて厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、本当に最後までよく頑張りました。皆さんの健康と活躍
を心より祈念して 式辞 といたします。

令和2年3月13日 生光学園中学校校長 佐近 隆義

新型コロナウイルスの関係で、開催そのものが心配された卒業式でしたが、このように厳粛
且つ立派な式が行えます事、すべての関係者の方に感謝いたします。ありがとうございました。